

日本語・ルーマニア語 対照訳

BOTEZ

洗礼機密

名古屋ハリストス正教会 2004年9月

目次

啓蒙式	17
聖洗機密	26
産婦40日の祝文	39

洗 礼

啓蒙式

司祭は、光照せられんことを欲する者に、帯を解き、外衣を脱がしめ、彼を裏衣のみにして、帯せず、冠せず、徒跣にして、両手を下に垂れ、東に嚮ひて立たしめ、三たび其の面に嘘き、其の額と胸とに三たび聖號を畫し、其の首に手を按して曰く、

主に禱らん、

主、眞實の神、爾と爾の獨生子と爾の聖神との名に依りて、我が手を、爾の僕某、爾の聖なる名に趨り付き、爾が翼の覆の下に守らるるを得たる者に按す、夫の奮き迷を彼より去りて、爾に於ける信、望、愛を彼に満て給へ、彼が、唯爾、及び爾の獨生子、我が主イイススハリストス、及び爾の聖神のみ、眞の神なりと知るが爲なり、彼に、爾が悉くの誠を

page 18

行ひ、爾に悦ばるる事を守らしめ給へ、蓋人若し此を行はば、此に因りて生きん、彼を爾が生命の冊に録し、彼を爾が嗣業の群に合せ給へ、願くは爾と、爾の至愛の子我が主イイススハリストス、生命を施す爾の神との聖なる名は、彼の衷に讃榮せられん、願くは爾の目は常に憐を以て彼を視、爾の耳は彼が禱の聲を聆き納れん、彼を其手の所為と其悉くの族とに於て樂ましめ給へ、彼が爾を伏し拝み、爾の至大至高なる名を讃榮して爾を承け認め、生涯爾を讃め揚ぐるが爲なり、
高聲蓋天軍皆爾を歌ふ、光榮は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

第一禁制

主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、

悪魔や、主は爾にいましむ、即爾の暴虐を滅し、人人を救ひ出すが爲に世に來りて人人の間に在しし主、日暗み、地震ひ、墓啓け、聖人の軀の起くる時、木に在りて敵軍に勝ちし主、死を以て死を滅し、死の権を有つ者、即爾悪魔を虚うせし主なり、生命の樹を躪し、之を守るが爲に、ヘルウィムと自ら旋る焰の劍とを置き給ひし神を以て、我爾に戒む、宜しく戒めらるべし、夫の陸を行くが如く、海の面を履みし者、風の烈しきを戒めし者、目を以て淵を涸らし、威嚇を以て山を融かす者に因りて、我爾に戒む、蓋涸れ親ら、今も我等を以て爾に戒む、畏れよ、出でよ、此の造物より退けよ、復之に返る毋れ、其中に潜む毋れ、之に遇ふ毋れ、或は之に感ずること、夜に、晝に、或時に、或は正午に於てする毋れ、乃備へし所の審判の大なる日に至るまで爾の地獄に去れ、ヘルウィ

page19

ムに坐して淵を瞰む神、即神使、神使首、寶座、権柄、主制、能力、首領、多目のヘルウィム、六翼のセラフィムが戦く主、天、地、海、及び凡そ其中に在る者ず戦く主を畏れて出でよ、已に印されし新に選ばれたるハリストス我が神の軍士より退けよ、彼の風の翼にて行き、焰を以て其使者と爲す者に因りて、我爾に戒む、出でよ、凡の爾の力と爾の使等と偕に、此の造物より退けよ、

高聲蓋父と子と聖神の名は讚榮せられたり、今も何時も世世に、「アミン」

第二禁制

主に禱らん、

聖にして其悉くの行事と堅力とに於て、畏るべく、光榮なる、悟り難く量り難き神、爾に、悪魔や、永遠の苦の罰を豫め定めし主は、我等其不當なる僕を以て、爾と凡の爾が同労の軍とに命じて、我が主イススハリストス、我等の眞の神の名を以て、新に印されし者より退かしむ、是の故に、我爾、至りて悪しき、不浄なる、穢はしき、厭ふべき、疎ましき邪神に、天に在り地に在る悉くの権を有つイススハリストス、曾て聾にして啞なる悪鬼に、人より出でて再之に入る毋れと曰ひし主の力を以て戒む、退れ、爾の虚しき力の、豕にだも権を有たざるを覚れよ、爾の願に由りて豕の群に入ることを爾に命ぜし者を憶へよ、神、即命を以て、地を水の上に固め、天を造り、準を以て山を建て、矩を以て谷を定め、沙を以て海の堺を限り、大水の面に堅き途を立て、山に触れて煙立たしめ、光を袍の如く衣、天を幕の如く張り、水の上に其の宮を建て、地を固き基に置いて世世に動かざるを致し、海の水

page20

を召して全地の面に注ぐ主を畏れよ、出でて、聖なる光照に己を備ふる者より退けよ、我が主イイススハリストスの救を得せしむる苦、其の尊體尊血、及び其畏るべき來臨を以て、我爾に戒む、蓋彼全地を審判する者は來りて遅はらず、而して爾と爾が同勞の軍とを、蟲の息はが火の滅えざる外の暗に投げ入れて、満火の「ゲエンナ」に苦ましめんとす、

蓋権は、ハリストス我が神に、并に父と聖神とに歸す、今も何時も世世に、「アミン」

第三禁制

主に禱らん、

主「サワオフ」イズライリの神、諸の病と諸の疾とを醫す者や、爾の僕を顧み、悪魔の悉くの動作を尋ね糾して彼より遠ざけよ、不浄なる悪鬼ら戒めて之を逐ひ出だし、爾が手の造物を潔くせよ、爾が敏き所爲を用ひて、速に「サタナ」を彼の足下に殪し、此と其不浄なる悪鬼とに勝たしめ給へ、彼が爾より憐を受けて、爾の不死なる天上の機密を獲、光榮を爾父と子と聖神に獻らんが爲なり、今も何時も世世に、「アミン」

第四祝文

主に禱らん、

永在の主宰、主、人を爾の像と肖とに依りて造り、彼に永遠の生命の権を予へ、後に罪を以て離れ落ちし者を見棄てず、乃爾のハレストスの人體ほ取るに由りて世の救を立てし主や、爾親ら此の爾の造物をも敵の奴隷より救ひて、爾が上天の國に受けよ、彼が靈の日を啓きて、彼の内に爾が福音の光

page 21

の輝くを致させ給へ、彼の生命に、光明の神使、彼を凡の悪敵の計、凶悪者の出会い、真昼の悪鬼、悪しき幻像より免れしむる者を合せ給へ、

次ぎて司祭、彼の口、額、胸に嘘きて曰く、

彼の心に隠れ潜む凡の凶悪なる不浄の気を彼より逐ひ出だせ、

右誦すること三次、

迷の気、狡猾の気、偶像禮拜と凡の貪婪との気、偽の気、悪魔の教に因りて行はるる凡の汚の気を逐ひ出だして、彼を爾のハリストスの聖なる群の靈智なる羊、爾の教会の貴き肢、爾の國の子、及び嗣業と爲し給へ、彼が爾の誠に遵ひて生命を度り、印の破れざるを保ち、衣の汚れざるを守りて、爾の國に於て聖人の福を亨けんが爲なり、

高聲爾が獨生子の恩寵と慈憐と仁愛とに因りてなり、爾は、彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、「アミン」

司祭は、洗を領けんとする者をして、西に嚮ひ、両手を挙げしめ、問ひて曰く、

「サタナ」及び其悉くの所行、其悉くの使、其悉くの勤、其悉くの矜を棄つるか、

啓蒙者答ふ、若し外国人にして語を辨ぜず、或は幼孩ならば受託者代り答ふ、棄つ、

再問「サタナ」及び其悉くの所行、其悉くの使、其悉くの勤、其悉くの矜を棄つるか、

答棄つ、

page 22

三問「サタナ」及び其悉くの所行、其悉くの使、其悉くの勤、其悉くの矜を棄つるか、

答棄つ、

司祭又彼に問ひて曰く、「サタナ」を棄てしや、

答 棄てり、

再問「サタナ」を棄てしや、

答棄てり、

三問「サタナ」を棄てしや、

答棄てり、

次ぎて司祭曰く、之に嘘き、之に唾せよ、

啓蒙者此を爲して後、司祭は彼をして、手を下げ、東に嚮はしめて、

問ひて曰く、ハリストスに配合するか、

啓蒙者或は受託者答ふ、配合す、

再問ハリストスに配合するか、

答配合す、

三問ハリストスに配合するか、

答配合す、

司祭又問ひて曰く、ハリストスに配合せしや、

答 配合せり、

又問 彼を信ずるか、

答 彼を王及び神と信ず、

次ぎて信經を誦す、

我信ず、一の神、父、全能者、天し地、見ゆると見えざる萬物を造りし主を、又信ず、一の主イイススハリストス神の獨生の子、萬世の前に父より生れ、光よりの光、眞の神よりの眞の神、生れし者にて造られしに非ず、父て一體にして萬物彼に造られ、我等人人の爲、又我等の救の爲に天より降り、

page 23

聖神及び童貞女マリヤより身を取り人となり、我等の爲に、ポンティピラトの時十字架に釘うたれ、苦を受け葬られ、第三日に聖書に應ひて復活し、天に升起、父の右に坐し、光榮を顕して生ける者と死せし者とを審判する爲に還来り、其の國終なからんを、又信ず、聖神、主、生を施す者、父より出で、父及び子と共に拝まれ讃められ、預言者を以て嘗て言ひしを、又信ず、一の聖なる公なる使徒の教会を、我認む、一の洗禮、以て罪の赦を得るを、我望む、死者の復活、並に来世の生命を、「アミン」

畢りて後、司祭再問ひて曰く、ハリストスに配合せしや、

答 配合せり、

又問 彼を信ずるか、

答 彼を王及び神と信ず、

再信經を誦して曰く、我信ず一の神父云々終に至る、

畢りて後、司祭三たび問ひて曰く、ハリストスに配合せしや、

答配合せり、

又問彼を信ずるか、

答彼を王及び神と信ず

三たび信經を誦して曰く、我信ず一の神父云々終に至る、

誦し畢りて後、司祭復彼に問ひて曰く

ハリストスに配合せしや、

答配合せり、

再問ハリストスに配合せしや、

答配合せり、

三問ハリストスに配合せしや、

答配合せり

司祭曰く、彼に伏拝せよ、

啓蒙者伏拝して曰く、

父と子と聖神、一體にして分れざる聖三者に伏拝す、

page 24

司祭曰く、

崇め讃めらるる哉神、衆人が救を得、眞理を知るに至らんことを欲する者や、今も何時も世世に、「アミン」

次ぎて左の祝文を誦す、

主に禱らん、

主宰、主、我等の神や、爾の僕某を、爾の聖なる光照に召し給へ、彼に此の爾の聖洗の大なる恩寵を得せしめ、彼の舊きを除き、彼を永遠の生命の爲に新にし彼に爾が聖神の力を満てて、爾のハリストスに體合せしめ給へ、彼が已に肉身の子たるに非ずして、爾の國の子とならんが爲なり、爾の獨生子の仁愛と恩寵とに依りてなり、爾は彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、「アミン」

聖洗禮儀

司祭堂に入り、白色の祭服を衣、套袖を著け、悉く燈明を點ずる時、
香爐を執りて洗盤に就き、其四周に爐儀を行ひ、已に畢りて叩拝す、
次ぎて輔祭曰く、

君や、祝讃せよ、

司祭高聲にして曰く

父と子と聖神の國は崇め讃めらる、今も何時も世世に、

詠隊「アミン」

輔祭聯禱を誦す、

我等安和にして主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、

上より降る安和と、我等が靈の救の爲に主に禱らん、

全世界の安和、神の聖なる諸教会の堅立、及び衆人の合一の爲に主に
禱らん、

此の聖堂、及び信と慎みと神を畏るる心とを以て、ここに来る者の爲
に主に禱らん、

教会を司ね尊貴なる我等の府主教ダニイル、司祭の尊品、ハリストス
による輔祭職、悉くの教衆、及び衆人の爲に主に禱らん、

page 27

我が國の天皇、及び國を司る者の爲に主に祈らん、

此の水が聖神の能力と拳動と庇蔭とに藉りて聖にせらるるが爲に主に祈らん、

此の救の恩寵、イオルダンの降福の遣さるるが爲に主に祈らん、

此の水に永在三者の潔を爲す拳動の降るが爲に主に祈らん、

我等が聖神の庇蔭に藉りて、睿智と敬虔との光に照らさるるが爲に主に祈らん、

此の水が見ゆると見えざる諸敵の悉くの悪謀を退くる者と顧るるが爲に主に祈らん、

此の内に洗を領くる者が、不朽の國に入るに堪ふる者となるが爲に主に祈らん、

今聖なる光照に就く者、及び其の救の爲に主に祈らん、

彼が光の子及び永福の嗣と爲るが爲に主に祈らん、

彼がハリストス我が神の死と復活とに接合せられて、之に分あるが爲に主に祈らん、

彼がハリストス我が神の畏るべき日に於て、洗禮の衣と聖神の聘質の汚なくきずなきとを守るが爲に主に祈らん、

此の水が彼の爲に、復生の浴盤、諸罪の赦、不朽の衣となるが爲に主に祈らん、

page 28

主、神が我等の禱の聲を聆き納るるが爲に主に禱らん、
彼及び我等が諸の憂愁と忿怒と危難とを免るるが爲に主に禱らん、
神や、爾の恩寵を以て、我等を佑け救ひ憐み護れよ、
至聖至潔にして至りて讚美たる我等の光榮の女宰、生神女、永貞童女
マリヤと、諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互に各の身を以て、
并に悉くの我等の生命を以て、ハリストス神に委託せん、

輔祭聯禱を誦する時、司祭左の祝文を黙誦す、

仁慈愛憐の神、心腹を試み、獨人の隠なる事を知る者や、蓋物として、
爾の前に著れざるなし、乃皆裸にして爾の目の前に露る、我が事を識
る主や、求む我を忌む勿れ、爾の顔を我より避くる勿れ、痛悔に依り
て人人の罪を恕する者や、是の時に於て我が罪を認むる勿れ、我が體
の汚と靈の穢とを滌ひ、我全人を、爾の完然なる見えざる力と神靈の
右の手とを以て聖にせよ、我が佗人に自由を傳へ、及び信の備はれる
者に之を與へて、自ら罪の奴隸として、爾の言ひ難き仁愛に與らざる
者とならざらんが爲なり、嗚呼獨・善にして人を愛する主宰や、願く
は我辱を受けて退けられざらん、乃上より我に力を遣して、今此の爾
の大いなる天上の機密を行ふかせ爲に我を堅め給へ、我不當の者に依
りて再生せんと欲する者の中に、爾のハリストスを銘せよ、彼を爾の
諸使徒と諸預言者との基に建てて揺かしむる勿れ、彼を眞理の植物と
して、爾の聖、

公、使徒の教会に植え付けて抜く勿れ、彼に因りても、其敬虔に進むを以て、爾父と子と聖神の至聖なる名の讚榮せらるるが爲なり、今も何時も世々に、「アミン」

右「アミン」に至るまで黙誦し畢りて後、高聲にして左の祝文を誦す、
主や、爾は至大なり、爾の行事は奇異なり、爾の奇蹟を讚詠するに堪ふる言なし、三次

蓋爾望を以て萬物を無より有と爲しし者は、爾の権能を以て造物を保ち、爾の摂理を以て世界を治む、爾四行を以て造物を合成せし者は、四季を以て周年を全うせり、靈智の萬軍は爾の前に慄き、日は爾を歌ひ、月は爾を讃め、星は爾に伴ひ、光は爾に従ひ、淵は爾の前に戦ひ、泉は爾に勤む、爾は天を張ること幕の如く、爾地を水の上に固め、爾沙を以て海を限り、爾呼吸の爲に空気を漑げり、神使の軍は爾に奉事し、神使首の隊は爾に伏拝し多目のヘルウィムと六翼のセラフィムとは、環り立ち周り飛んで、爾の近づき難き光榮を畏れて面を蔽ふ、爾は像り難き、始なき、言ひ盡くされぬ神にして、地に來りて僕の形を受け、人の像を成せり、蓋主宰や、爾は慈悲の多きに因りて、人類の悪魔に苦めらるるを視るに忍ばず、乃來りて我等を救そ給へり、我等は恩寵を承け認め、慈憐を傳へ、恩賜を蔽はず、爾は我が性の族を自由にし、爾の降誕にて童貞女の腹を聖にせり、悉くの造物は爾現れし者を讃め歌ふ、蓋爾我が神は地に現れて人と偕に在せり、爾は又天より爾の聖神を遣してイオルダンの流を聖にし、其中に棲む蛇の首を砕けり、

page 30

人を愛する王や、今も親ら、爾が聖神の庇蔭に藉りて、来りて此の水を聖にせよ、**三次**

此に救の恩寵、イオルダンの降福を與へ給へ、此を不朽の泉、成聖の賜、諸罪の赦、諸病の醫、悪魔を滅す者、敵軍の近づき難き者、神使の力に満たさるる者と爲して、爾の造物を害せんと謀る者の此より逃ぐるを致せ、蓋主や、我爾の奇妙にして光榮なる、且敵の爲に畏るべき名を呼べり、

次ぎて三次指を水中に入れて聖號を畫し、及び水に嘔きて誦す、

願くは爾が十字架の印の下に、悉くの敵軍は滅びん、**三次**
主や、我等爾に禱る、願くは我等より凡の空中の實體なき幻は退かん、願くは此の水に暗き魔は潜まざらん、又洗を領くる者と偕に、思慮の暗と心意の擾とを起す凶悪の鬼は降らざらん、萬有の主宰や、爾此の水を以て、救の水、成聖の水、靈體の潔、縛の解、諸罪の赦、靈の光照、復生の浴盤、靈神の更新、子とするの恩賜、不朽の衣、生命の泉と顕し給へ、蓋主や、爾曰へり、己を洗へよ、然らば潔くならん、悪を爾等の靈より去れと、爾は上より、水と聖神とに由る再生を我等に賜へり、主や、此の水に現れ給へ、及び此の中に洗を領くる者を変化せしめて、彼が惑の慾に朽つる所の舊き人を脱ぎ、彼を造りし者の像に因りて改めらるる所の新なる人を衣るを賜へ、彼が洗を以て、爾の死の状に接合せられて、復活にも分ある者と爲らんが爲、及び爾の聖神の賜を守り、恩寵の聘質を増加して、上よりの召を蒙る尊榮を受け、天に録さ

page 31

れたる首生の者に加へられんが爲なり、爾神我が主イイススハリストスに依りてなり、蓋光榮と権柄とは、爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに歸す、今も何時も世世に、「アミン」
衆人に平安、

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

司祭は、輔祭が執る所の油器に三たび嘘き、及び三たび聖號を畫す、

輔祭 主に禱らん、

司祭 左の祝文を誦す、

主宰、主、我が先祖の神、ノイの舟に居る者に、和睦の徴、洪水より救はるる號たる、橄欖の小枝を含む鴿を遣し、此を以て恩寵の奧秘を前兆し、爾の聖機密を行ふが爲に橄欖の果を予へ、此に由りて、法律の下に在る者にも聖神を充つて、恩寵の下に在る者をも全備する主や、親ら爾が聖神の力と挙動と庇蔭とを以て此の油にも祝福して、信を以て之を傳け、或は之を食ふ者の爲に、此を不朽の傳、義の武器、靈體の更新、凡の悪魔の挙動の遠隔、凡の悪の解離と爲せしめ給へ、爾と爾の獨生子と、至聖至善にして生命を施す爾の神との光榮の爲なり、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

輔祭 謹みて聴くべし、

司祭衆と偕にア ril l i y a を歌ふこと三次、此の際、油を以て水に十字形を畫すること三次、

page 32

次ぎて高聲にして曰く、

崇め讃めらるる哉神、凡の世に来る人を光照し、及び成聖する者や、
今も何時も世々に、

詠隊 「アミン」

洗を領けんとする者進めらる、司祭油を執りて、其額、胸、脊の両肩
の間等に十字形を印す、

額(及び両目鼻口)に印す時誦して曰く、

神の僕某喜の油を傅けらる、父と子と聖神の名に因りてなり、今も何
時も世々に、「アミン」

胸と背の両肩の間とに印す時に曰く、霊と體とを痊すが爲、

両耳に、教を聴くが爲、

両手に、爾の手我を造り、我を設けり、

両足に、爾が誠の路を履むが爲なり、

全體に傅け畢りて、司祭彼に洗を授けて曰く、

神の僕某洗を領く、父、「アミン」及び子、「アミン」及び聖神の名に
因りてなり、「アミン」今も何時も世々に、「アミン」

父・子、聖神を誦する毎に、司祭彼を直くして水中に降升す、但し洗
を領くる者の面を東に向はしむべし、

洗し畢りて、司然手を盥ひ、衆と偕に第三十一聖詠を歌ふ、

不法を赦され罪を蔽はるる人は福なり云々 三次

第三十一聖詠

ダウイドの詠。教訓。

不法を赦され、罪を蔽われたる人は福なり。

主が罪を帰せず、その神に偽りなき人は福なり。

我黙しし時、我が終日の呻吟に因りて、我が骨古びたり、

蓋爾の手は昼夜重く我に加わり、我が潤沢の消えしこと夏の旱に於け
るが如し。

然れども我我が罪を爾に顕わし、我が不法を隠さざりき、我謂へり、我が罪を主に痛告すと、爾乃ち我が罪の咎を我より除けり。

此に縁りて諸々の義人は便宜の時に於いて爾に禱らん、其の時大水の溢れは彼に及ばざらん。

爾は私の蔽いなり、爾は我を憂いより護り、我を救いの喜びにて環らす。

我爾を教えん、爾に行くべき路を示さん、爾を導かん、我が目爾を顧みん。

爾等は、手綱と轡とを以て口を束ねて爾に従わしむる、無知なる馬と驢馬との如くなる毋れ。

悪者には憂い多し、主を恃む者は憐れみ之を環る。

義人よ、主の為に喜び楽しみ、心の直き者よ、皆祝え

司祭衣を以て洗を領けし者に衣せ、誦して曰く、

神の僕某義の衣を衣せらる、父と子と聖神の名に因りてなり、今も何時も世世に、「アミン」

次ぎて左の讃詞を歌ふ、第八の調、

光を袍の如く衣る大仁慈なるハリストス我が神や、我に光明の衣を予へ給へ、

衣せ畢りて、司祭左の祝文を誦す、

崇め讃めらるる哉、主・神・全能者・萬善の源、義の日なる者や、爾は其の獨生子、我等の神の顕るるを以て、幽暗に居る者に救の光を照らし、及び不當なる我等に。聖水に於ける福たる浄と生命を施す傳膏に於ける神妙なる成聖とを賜ひ、今も、水と聖神とを以て、新に光照せられし爾の僕を再生むを喜び、並に彼に、自由と不自由との罪の赦を賜へり、主宰慈深き萬有の王や、爾親ら、亦彼に、爾の全能なる、伏拝せらるる聖神の恩賜の印、及び爾のハリストスの聖體尊血を領くことを賜へ、彼を爾の成聖に護り、正教に堅め、凶悪者

page 34

と其悉くの所爲より援け、爾に於ける救の畏を以て、彼の霊を潔淨と義とに護り給へ、彼が凡の行と言とに於て爾の喜ぶ所と爲りて、爾が天國の子及び嗣と爲らんが爲なり、

高聲蓋爾は我等の神、憐み且救ふ神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、「アミン」

誦し畢りて、司祭聖膏を以て、洗を受けし者の額、両目、両鼻孔、口、両耳、胸、両手、両足に十字形に傳く、傳くる毎に曰く、

聖神の恩賜の印、「アミン」

畢りて後、司祭は、傳膏せられし者、及び其受託者と偕に、三たび洗盤を環る、環る毎に歌ふ、

ハリストスに於て洗を領けし者はハリストスを衣たり、「アレルイヤ」
次ぎて提綱、第三の調、

主は我が光と我が救なり、我誰をか恐れんや、

句 主は我が生命の防固なり、我誰をか懼れんや、

聖使徒パウエルが 로마人 に達する書の讀、**六章三節-十一節に至る**

兄弟や、我等ハリストスイイスに於て洗を領けし者は、皆彼の死に於て洗を領けしなり。故に我等は死に於ける洗を以て彼と偕に葬られたり、ハリストスが父の光榮を以て死より復活せし如く、我等も新にせられたる生命を度らんが爲なり、蓋我等若し己に彼の死に效ふを以て彼と接合せらるれば、乃復活に效ふを以ても接合せらるべし、蓋我等知る、我等の舊き人は彼と偕に釘せられたり、罪の身滅されて、我等復罪の奴とならざるが爲なり、死せし者は罪より釋かれしに因る、我等若ハリストスと偕に死すれば、則亦彼と偕に生きんこと

を信ず、蓋知る、ハリストス死より復活して復死せず、死も亦彼の上に権を有たざるを、彼の死せしは、罪の爲に一たび死し、彼の生くるは、神の名に生くればなり、是くの如く、爾等も己を以て、我が主ハリストスイススに在りて、罪の爲に死し、神の名に生くる者と意ふべし、

司祭 爾に平安、

輔祭 睿智、謹みて聴くべし、

誦經 「アリルイヤ」三次

輔祭 睿智、肅みて立て、聖福音經を聴くべし、

司祭 マトフェイ傳の聖福音經の讀、

輔祭 勤みて聴くべし、

司祭 誦す、二十八章十六節より二十節に至る

彼の時、十一門徒ガリレヤに往きて、イススの彼等に命ぜし山に至る、既に彼を見て之に伏拝せり、然れども亦疑ふ者あり、イスス前みて彼等に語げて曰へり、天に在り地に在る凡の権は我に予へられたり、故に爾等往きて、萬民を教へて、父と子と聖神との名に因りて彼等に洗を授け、彼等に、我が凡そ爾等に命ぜしことを守らしめよ、且視よ、我恒に爾等と偕に世の終るまで在るなり、「アミン」

ルーマニア語の祈禱書にはこの連禱がない

次ぎて聯禱、

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に禱る、聆き納れて憐めよ、

詠隊 主憐めよ、三次

又我が天皇、及び國を司る者の爲に主に禱る、

又教會を司る至尊なる（府）主教 の爲に禱らん、

又神の僕受託者某に、慈憐、生命、平安、壮健、救贖、及び諸罪の赦を賜はんが爲に禱らん、

又新に光照せられし神の僕某の爲に禱らん、

彼が生涯醇正の教の承認と凡の敬虔とハリストスの誠の柔順とに守られんが爲に禱る、

高聲 蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

司祭 ハリストス神我等の特や、光榮は爾に歸す、光榮は爾に歸す、

詠隊 光榮は父と子と聖神に歸す、今も何時も世世に、「アミン」

主憐めよ、三次 祝福せよ、

司祭 發放詞を誦す、

第八日に及び、領洗者を復聖堂に至らしめて滌淨の式を行ふ、司祭其襦袢(或は衣)と帯とを解かしめて左の祝文を誦す、

主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、

聖洗を以て爾の僕に諸罪の赦を賜ひ、彼に復生の生命を予へし主宰、主や、爾親ら彼の心に、爾が顔の光の常に輝くを賜へ、其信の盾を敵に敗られずして守り、已に衣せし不朽の衣

page 36

を彼の中に汚なくきずなく保ち、爾の恩寵を以て、聖神の印を彼の中に損はれずして護り、爾が恵の多きに依りて、彼と我等とに慈憐を垂れ給へ、

蓋爾父と子と聖神の至尊至巖の名は讚美讚榮せらる、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

主に禱らん、

詠隊 主憐めよ、

主宰、主、我等の神、洗盤を以て天の光明を洗を領くる者に予へ、水と聖神とを以て新に光照せられし爾の僕を再生み、并に彼に、自由と不自由との罪の赦を賜ひし者や、爾が権能の手を彼に按ら、爾が至善の能力の中に彼を護れ、其の聘質の奪はるるを許さずして、彼を永遠の生命と爾の喜とに當る者とならしめ給へ、

蓋爾は我等の成聖なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

衆人に平安、

詠隊 爾の神にも、

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

詠隊 主爾に、

爾ハリストス我が神を衣たる者は、其首を我等と偕に爾に屈めり、祈る彼を守りて、彼と我等とに徒に仇を構ふる者に対して敗られざる軍士となし、爾が不朽の榮冠を以て我衆を終に至るまで勝つ者と現し給へ、蓋憐み且救ふことは爾に属す、我等光榮を爾と爾の無原の父と至聖至善にして生命を施す爾の神とに獻ず、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

司祭の帯と襦袢とを取り、其端を合せて清水にひたし、児に洒ぎて曰く、

爾は義にせられたり、照らされたり、聖にせられたり、滌はれたり、我が主イイススハリストスの名と我が神の神とに因りてなり、水にひたしたる新海絨を取りて、彼の面、胸其他(聖膏を傅けし處)を拭ひて曰く、

爾は洗せられたり、照らされたり、傅膏せられたり、聖にせられたり、滌はれたり、父と子と聖神の名に因りてなり、今も何時も世世に、「アミン」

剪髪祝文

輔祭 主に祷らん、

詠隊 主憐めよ、

主宰、主、我等の神、爾の像を以て人を尊くし、此を智慧ある霊と美麗なる軀とを以て合せ造り、軀をして智慧の霊に勤めしめ、首を其上に置き、此の内に官能の多きを植えて相侵さざらしめ、髪を以て首を覆ひて、気候の変動の爲に損はれざらしめ、并に善く彼の百體を備へて、悉く此を以て爾精妙なる美術師に感謝せしむる主や、爾の擇びし器なる使徒パウエルを以て、我等に、凡の事爾が光榮の爲に行ふを戒めし主宰や、求む爾親ら、其首の髪を剪りて、初の祭を成すが爲に來りし爾の僕某と其受託者とに福を降し、彼等に、皆爾の法を習ひ、爾が悦ぶ所を行ふを賜へ、

蓋爾は慈憐にして人を愛すね神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

衆人に平安、

詠隊 爾の神にも、

輔祭 爾等の首を主に屈めよ、

詠隊 主爾に、

page 38

司祭左の祝文を誦す、

洗盤の充満に依り、爾の仁慈を以て爾を信ずる者を聖にせし主、我等の神や、此の子に福を降し給へ、願くは爾の降福は其の首に臨まん、預言者サムイルを以てダavid王に福を降しし如く、我罪人の手を以て爾の僕某の首にも福を降して、爾の聖神を以て彼に格子給へ、彼が生長して白髪に至る迄も、生涯光榮を爾に歸し、及びイエルサリムの福を觀んが爲なり、

蓋凡そ光榮、尊貴、伏拝は爾父と子と聖神に歸す、今も何時も世々に、

詠隊 「アミン」

司祭彼の髪を十字形に剪りて曰く、

神の僕某剪髪せらる、父と子と聖神の名に因りてなり、今も何時も世世に、

詠隊 「アミン」

次ぎて聯禱を誦す、其中、皇帝の後に、受託者及び新に光照せられし者の名を挙ぐ、

神や爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ云々

又神の僕受託者某及び新に光照せられし某に、慈憐、生命、平安、壮健、及び救贖を賜はんが爲に禱る、

page 39

司祭 蓋爾は慈憐にして人を愛する神云々
及び常例の發放詞を誦す、

産婦第四十日の祝文

第四十日に及びて、子は復堂の前に携へらる、入會禮を行ふが爲、即
始めて教会に入れらるるが爲なり、其母已に滌ひ潔まりて之を携ふ、
洗禮の後子を受けんと欲する者も亦茲に立つ、

司祭誦す我等の神は恒に崇め讃めらる云々

聖三祝文 至聖三者 主經 蓋國云々

次ぎて本日の發放讃詞、或は當日の聖人の讃詞、
光榮 今も

page 42

主や、諸聖人と生神女との祈禱に因りて、爾の平安を我等に予へ、并に我等を憐み給へ、爾獨鴻恩の主なればなり、

産婦其の子を抱きて首を俯し、司祭聖號を子の上に畫し、其の首を按して左の主祝文を誦す、

主に禱らん、

主、神、全能者、我が主イイススハリストスの父、其の言を以て、凡の言あると言なきとの性を造り、萬物を無より有と爲しし者や、我等爾に祈り、爾に求む、爾が其旨を以て救ひ給ひし爾の婢某、爾の聖なる教会に来る者を、凡の罪凡の汚より浄め給へ、其定罪せらるるなくして爾の聖なる機密を領くるを得んが爲なり、

知るべし、子若し存せざれば、祝文此に至りて畢る、次ぎて司祭高聲にして曰く、

蓋爾は善にして人を愛する神云々

若し其の子生存すれば、祝文を誦して終に至る事左の如し、

並に、彼より生れし子に福を降し、之を生長せしめ、之を成聖し、之を聡明にし、之を貞節にし、之を善良に爲し給へ、爾が彼を来らしめて、彼に物質の光を觀るを得せしめし如く、願くは彼は、爾が定めし時に於て、亦靈神の光を觀るを得、並に爾の聖なる群に合せられん、爾の獨生子に因りてなり、爾は、彼と至聖至善にして生命を施す爾の神と偕に崇め讃めらる、今も何時も世世に、「アミン」

衆人に平安、

爾等の首を主に屈めよ、

子の母の爲にする祝文

主我等の神、人類を救ふが爲に臨みし者や、爾の婢某にも臨み、爾が司祭の尊品を以て、彼に爾が光榮の堂に入るを得せしめ、其四十日の満期に於て、彼の體の汚と靈の穢とを滌ひて、彼を爾が尊體尊血を領くるに堪ふる者と爲し給へ、蓋爾の至尊至嚴なる名は父と聖神と偕に成聖讚榮せらる、今も何時も世世に、「アミン」

子の爲にする祝文、司祭子に聖號を畫して誦す、

主に祈らん、

主我等の神、第四十日に於て、赤子として、マリヤ婚配に與らざる爾の聖なる母を以て法律の堂に携へられ、義なるシメオンに抱かれし全能の主宰や、爾親ら、此の赤子、爾萬物の造成主に觀えんが爲に携へられし者に福を降し、之を凡の爾が悦ぶ所の善事の爲に成長せしめ、爾が十字架の號を畫するに因りて、彼より凡の敵軍を驅り給へ、爾は赤子を守る主なればなり、願くは彼は聖洗を領くるを得、我等と共に、一體にして分れざる聖三者の恩寵に守られて、爾ず國の選ばれし者の分を受けん、益凡そ光榮、感謝、伏拝は、爾と爾の無限の父と至聖至善にして生命を施す爾に神とに歸す、今も何時も世世に、「アミン」

衆人に平安、

爾等の首を主に屈めよ、

神、父、全能者や、爾は極めて大聲なる預言者イサイヤを以て、我等に、爾の獨生子我が神の童貞女より身を取り給ふを預言せり、彼は末の日に於て、爾の許と聖神の協力とを以て、我等人人の救のなに、無量の慈憐に依りて、甘じて赤子となり、眞の立法者にしてて爾の聖なる法律の例に遵ひ、潔の日の満つる後に聖所に携へらるることを忍び、義なるシメオンの手に抱かるるを甘じ給へり、我等此の秘密の預像を、彼の預言者に在りて、焼炭の鉗に現れたる者として悟れり、我等信者も、恩寵に依りて此に倣ふを致す、赤子を守る主や、今も親ら此の子に、其親と受託者と偕に福を降し、宜しき時に於て、彼が水と聖神とに因りて生るることを得せしめ、彼を爾のハリストスの名を蒙る爾が靈智の羊の聖なる群に加へ給へ、蓋爾は高きに居て卑きを臨む主なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に、「アミン」

儻し赤子未洗を領けざれば、茲に入會禮を行はず、洗を領くるを待ちて 之を行ふ、即右の祝文此に至りて後、常の如く發政詞を誦す、若し已に 洗を領くれば入會禮を行ふこと左の如し、

次ぎて司祭子を執り、此を以て、堂門の前に十字形を畫して曰く、神の僕(或は婢)某教会に入れらる、父と子と聖神の名に因りてなり、今も何時も世世に、「アミン」

次ぎて之を携へて堂に入りて曰く、

爾の家に入り、爾が聖堂に伏拝せん、

堂の正中に至りて曰く、

神の僕(或は婢)某教会に入れなる云々

亦曰く、

爾を會中に讃め揚げん、

次ぎて至聖所の門の前に至りて曰く、

神の僕(或は婢)某教会に入れらる云々

若男子ならば、是を至聖所内に携へ、若女子ならば、王門に至りて、

止りて誦す、

主宰や今爾の言に循ひ爾の僕を安然として逝かしめ給ふ云々

誦し畢りて、子を至聖所の門の前に置く、受託者三たび伏拝して之を

取り、位に復る、司祭常の如く發放詞を誦す、